

最新のマーケット & 社会ニュースをチェック！



UM NEWS

ウメモトニュース

VOL.14

2025.6.18



<https://um-info.com/>

Webでも
情報発信中!!

UMニュースとしてリニューアル！

注目のニュース

— Featured Picks



HOT!

①拡大期迎えた水性IJインキ
軟包材向けが主戦場に



HOT!

②毎日新聞、8月から土曜夕刊休止
販売店の労働環境改善

— The Headlines

その他のニュース

朝日新聞

PICK UP!

③朝日新聞、8月から土曜夕刊を休止
販売所の労働環境改善



PICK UP!

④ゴム加工関連原料 カー黒、
大きく上げ基調



PICK UP!

⑤リンカーズ、新マッチングサービス
来年提供開始



株式会社KNiT

PICK UP!

⑥KNiT、パンや培養肉など
AI画像で食感を数値化



PICK UP!

⑦中東危機、原油高が突く米経済の「不
都合な真実」

① 拡大期迎えた水性IJインキ 軟包材向けが主戦場に

2025 年 6 月 16 日 化学工業日報



軟包材へのIJ印刷の適用イメージ。日本化薬は“プライマーレス”をテーマに提案する

版が不要でオペレーターの熟練度も問わない印刷方式として長らく注目を浴びるインクジェット(IJ)印刷。これまで屋外広告やテキスタイルなどの分野で紫外線(UV)硬化型インキが成長を続けてきたが、2024年頃から水性品の成長が目立ち始めた。素材供給を担う各社がいずれも主要ターゲットとにらむのは食品の軟包材向け適用で、長らく溶剤系グラビア印刷が包材向けの主流を占めた日本市場でもいよいよ版式変更が本格化する可能性がある。主に環境対応の面から注目される水性フレキソ印刷とともに、遠くない将来にフィルム向けの2大印刷プロセスとして立ち上がっていきそうだ。

＜“非・インキ大手”が先行 プライマー技術に焦点＞



DICは買収シナジーで水性IJに適した新顔料を創出した

IJ市場はプリンターメーカーにおける在庫滞留や仮需などに影響されやすく景気動向をすぐさま反映しにくいですが、24年度はインキを中心とした主要プレイヤーで好調が目立った。

主にUV硬化型が多い分野では、DICがテキスタイル用を伸ばして前年度比30%の増収を達成。サカタインクスもアパレル分野でスクリーン捺染からIJへの置き換え需要などを獲得。少し毛色の違う分野では日本化薬の消費者向けIJ用色素が想定以上の仮需を吸収し、22年度下期から生じた在宅印刷ニーズの停滞から反転・再浮上するシーンもあった。

産業用IJの分野をみると、環境の変化にともなって各社とも対象市場のシフトを着実に進めている。この分野では長らく屋外広告が代表的な適用先とされてきたが、中国勢の進出などで売価下落に直面。そのため日系各社は「用途領域の絞り込み」をともなうデジタルシフト戦略を採り、産業用のなかでも自社がなじみやすい1～3分野ほどの範囲で商機を掴もうとする動きが活発だ。

メーカーによってリストアップする注力領域はまちまちだが、ほぼ共通するのが「水性IJの軟包材向け適用」と言える。この分野は欧州市場が先行し、現状では主にスナック類などの簡易包装への適用が進展。大手インキメーカーによれば「裏刷りで複雑な層構成を採るボイル・レトルト包材向けはまだ採用がない」状況だが、各社が材料側からの改良提案でしのぎを削る。

軟包材への水性IJ適用は“非・インキ大手”が技術的に先行することが特徴で、日本化薬や花王などが存在感を示す。日本化薬は「プライマーレスの水性顔料インキ」として多様なフィルム基材に適用させるコンセプトを採り、30年度のシェア目標として10%を設定した。この分野のグローバル市場を1300億円と見込んでおり、今春には福山工場（広島県福山市）に専用新棟「A-I-1」を竣工させて市場成長への備えを固めた。

水性IJインキは基材への密着性が課題となりやすく、日本化薬が目指すプライマーレス化は相応にハードルが高いのも事実だ。既存のインキ大手ではIJ以外の在来版式も熟知するという視点の違いから、むしろプライマー技術を差別化要因と位置づける例が散見される。

この路線を採用するのはartience傘下のトーヨーカラーやサカタインクスだ。サカタインクスは発色性を高めるための白インキの塗工を含む全プロセスの水性IJ化を基本路線としつつも、ニーズに応じたフレキシブル対応に照準を定める。「IJは高精細な印刷を得意とする一方、いわゆる“ベタ塗り”が苦手」（同社）という特性を直視し、グラビアなど従来の有版プロセスと組み合わせた「ハイブリッド印刷」にも応じる構えをみせる。

<顔料種置き換えに商機 水系分散への適性向上>

IJの水性化は、主要素材である顔料にも商機をもたらす。インキ・顔料とも世界最大手の地位にあるDICでは、顔料外販の注力分野の一つとしてデジタル印刷市場を設定。ここではとくに21年に買収したBASF顔料事業（旧C&E）との技術シナジーがカギを握り、24年にはブルーとイエローで新顔料の開発に成功した。新製品2種はいずれもIJヘッドの目詰まりを防ぐ「キュービック形状」に特徴があり、水系分散への適性を高めた点からも訴求を強める。

IJインキはオフセット・グラビア・フレキソなどの各インキとは異なり、多環系の高級顔料を多用する点に特徴がある。プロセスカラー別にみると、マゼンタがキナクリドン系、シアンは銅フタロシアニン系の精密合成品が主流を占める。一方でイエローは必要な色相に応じて多環系・アゾ系とも多くの顔料種を使い分ける傾向にあるが、水系分散に限ればモノアゾ系が主流とされる。

DICは旧C&Eの統合によってマゼンタ・シアンのシェアを大きく伸ばした一方、イエローのシェア向上が課題として残った。24年に投入した新規イエロー顔料では将来見込まれる化学品規制の厳格化をシェア向上のきっかけとする考えで、モノアゾ系からの品種転換を志向。特定芳香族アミン（PAA）の溶出対策といった観点から、新製品ではジスアゾを主骨格として採用した。



スダルシャンはホイバツハの傘下入りでデジタル印刷用を拡充した

他の顔料大手もそれぞれの得意分野からIJ用の顔料種の転換に商機を見出す。DICが技術基盤を拡充したキナクリドンへの対抗策を打ち出すのは、世界2位の印スダルシャンケミカルインダストリーズだ。今年2月にドイツ系・スイス系の流れを汲むホイバツハ・グループを買収したことがIJ分野に本格進出する端緒となったが、買収直前にホイバツハが静岡工場（静岡県掛川市）で生産を始めた新規ナフトール系顔料によるキナクリドン代替を狙う。

一般にナフトールを含むアゾ系顔料は黄みに寄った赤色だが、ホイバツハは独自設計によってキナクリドンに近い青みがかった赤色を実現。着色力の高さと合わせて訴求しており、IJのほかトナー向けでも高耐久・低コスト化をターゲットに据えていく。

デジタル印刷用顔料の主要サプライヤーは20年代に相次いだグローバル大手の合従連衡でDICースダルシャンの2陣営に絞り込まれた格好だが、類似の「置き換え路線」で独自の立ち位置を目指すのがトーヨーカラーだ。同社もIJインキのほかに顔料外販を手がけるポジションにあり、マゼンタでは同じくナフトール系によるキナクリドン代替を志向。イエローでも水系分散に適した新骨格の顔料開発に挑み、これまで特色インキが必要とされたレッド・グリーンまでをCMYのみでカバーする点で差別化を図りたい考えだ。

＜印刷速度にブレイクスルー待望 中規模程度もカバーへ＞

まだフィルム分野での在来版式の置き換えは本格化していないが、トーヨーカラーによれば「24年はとりわけ産業用IJを含むデジタル印刷の普及が本格化した印象」があった。背景には先進国で共通課題となる人手不足や人件費の高騰があり、市場規模の大きい商業印刷・ラベル向けなどでオフセット印刷からの切り替えが進んだもよう。具体的な適用先は不明だが、日本化薬でも24年度業績に水性IJインキの出荷増が反映された。

サカタインクスによれば、現状は「包材生産におけるボリュームの観点から、在来版式の環境対応とデジタル印刷の導入で棲み分けるべき分岐点が見えてきた段階にあるのだろう」とのことだ。水性IJには印刷速度に関するブレイクスルーが求められるが、将来は少ロットの限定品向けから脱して中規模程度の量産包材までをカバーしていく可能性もある。

一方で大量生産向けは長年にわたって水性フレキソ印刷によるグラビア代替が注目を集めており、24年にTOPPANがレトルト包材への適用に成功した事例は見逃せない。TOPPANは19年に群馬センター工場（群馬県明和町）に水性フレキソ機を導入してから検討を進めてきたが、コロナ禍を挟んでいよいよ量産適用の時期を迎えた格好と言える。

今後は「水性フレキソ×無溶剤型ラミネート接着剤」のセット導入で環境対応を加速する考えで、グラビア印刷からの版式変更について旗振り役を目指す。一方の水性IJも大阪シーリング印刷といった中堅企業が今年に入って導入を発表しており、将来のフィルム印刷で双璧をなし得る「水性IJ／水性フレキソ」から目が離せない。

②毎日新聞、8月から土曜夕刊休止 販売店の労働環境改善

2025年6月12日 日本経済新聞

毎日新聞社は12日、8月2日から土曜日の夕刊を休止すると発表した。新聞販売店の従業員や配送トラックの運転手の人手不足が深刻化しており、労働環境の維持や改善を図るためとしている。月曜日から金曜日までの夕刊発行は続ける。購読料は据え置く。

夕刊を発行しているのは東京都や大阪府など16都府県。全ての都府県で土曜日の発行をやめる。

土曜日に掲載していた芸能やスポーツなどの記事は平日に掲載する。金曜日の夕刊をリニューアルし、医療・健康情報を充実させるという。

全国紙の夕刊発行を巡っては、朝日新聞も8月から土曜日の夕刊を休止すると3日に発表した。毎日新聞と同様、新聞販売店の労働環境の改善を図ると説明していた。〔共同〕



③朝日新聞、8月から土曜夕刊を休止 販売所の労働環境改善

2025年6月3日 日本経済新聞

朝日新聞社は3日、8月から土曜日の夕刊を休止すると発表した。朝日新聞販売所の労働環境の維持や改善を図るためとしている。人手不足が深刻化する中、休日の確保や労働時間の適正化が社会的要請となっているとした。月曜日から金曜日の夕刊発行は続ける。購読料は据え置く。

朝日新聞社によると、土曜日の夕刊の発行部数は4月時点で約89万部だった。茨城、兵庫、和歌山各県など1都2府8県で発行している。

土曜日の特集記事は平日夕刊に移し、論説委員による大型論考など新たな企画も始めるという。〔共同〕

朝日新聞

④ゴム加工関連原料 カー黒、大きく上げ基調

2025 年 6 月 12 日 化学工業日報

ゴム加工製品の国内における周辺原料価格をみると、カーボンブラック(カー黒、CB)は上げ基調となった。また「メーカー各社の“ベースアップ”が出揃った」(商社筋)ことで目下、価格交渉も進み、大きく上げ基調にある。炭酸カルシウム(炭カル)は、重質炭酸カルシウム(重炭／重カル、重質品)および軽質炭酸カルシウム(軽炭／軽カル、軽質品)で新値が浸透済み。ゴム薬品も同様だ。合成ゴムも動きがないが、一部でエチレンプロピレンゴム(EPDM)のベアが打ち出され、市場が様子見の状況。昨年末に価格改定が打ち出されたホワイトカーボンは当初の見通し通り、今春までに新値が浸透したようだ。

CBは原油価格に連動して3カ月ごとに決まるフォーミュラ制の値決めが定着している。ただ算定対象の油格が、ブレント原油の円価計算となるケースが多く、一般に原油価格が下落基調だったなかでも今年に入ってから上昇傾向にあった。そのため、5～7月のCB価格は1キログラム当たり2～5円の上げ幅だった。

またメーカーがベアを打ち出しており、先ごろ各社のアナウンスが出揃った。人件費・労務費や物流費の上昇などを背景としており、製造・供給面でのコスト増が影響している。需要家は抵抗しているが、「現状では国内のCB需給にややタイト感がある」(市場関係者)ようだ。不足分は輸入品で賄われるが、供給安定性や品質面では国内品に優位性がある。そのため売り腰が強く、初夏までには大手需要家でも受け入れが進み、「おそらく満額で決着する」(同)見込みだ。

炭カル価格は現状、大きな値動きはない。重質品については、輸送費の上昇や電力料金の変動を加味し昨春に新値が浸透している。軽質品も重質品から半年のタイムラグで価格改定アナウンスが出され、昨年内には新値が浸透したようだ。なお軽質品は、機械的な破碎・粉碎で製造する重質品と異なり化学プロセスを経て製造する。そのため軽質品の方が値上げ幅も大きかったようだ。

ゴム薬は人件費・労務費など製造コストの上昇に加え、為替動向や需給動向による輸入原料の高値を背景に値上げ交渉が進んでいた。昨年後半に「打ち出しの“八掛け”から満額」(商社筋)で決着しており、現状では上げ機運に乏しい。

原料となる国内合成ゴムでは、市場関係者が注目していたCRが、すでに新値に移行済み。ただフォーミュラ制の値決めが定着しているEPDMで、一部メーカーがベアを打ち出している。他メーカーも状況をみながら、夏期～秋期までに追隨してアナウンスを打ち出す可能性が出ている。設備更新費など老朽化したプラントの維持コストが増大していることが背景要因。ただ各社の上げ幅については「多品目も含めた設備・収益などエチレンセンター全体での採算性や、企業トータルでの事業構造が違う」「ゴム品目単体としての打ち出し幅には差が出るだろう」(市場関係者)との見通しがある。

合成シリカの一種であるホワイトカーボンでも昨年末から価格改定が打ち出されている。合成シリカは湿式の沈降シリカ、ゲル状タイプのゲルシリカ、乾式シリカ、シリカゾルなどに大別され、ホワイトカーボンは沈降シリカの通称。こちらは今春には新値が浸透したようだ。外販メーカーが限定されていることもあり、スムーズな決着となったもよう。値上げが通ったばかりのため、現状では上げ機運に乏しい。

⑤リンカーズ、新マッチングサービス 来年提供開始

2025 年 5 月 16 日 化学工業日報



前田社長

ビジネスマッチング事業を展開するリンカーズ（東京都文京区、前田佳宏社長）は、SaaS（ソフトウェア・アズ・ア・サービス）による新たな情報検索・マッチングサービスを開始する。AI（人工知能）を使用した対話形式の条件検索により、マッチング時間の大幅な短縮に成功した。従来は3カ月程度を要していた面談までの時間が、最短1週間で設定できるという。2026年春までに提供を開始する予定で、同年半ばには海外の特許や最新の研究事例も取り込むなど、マッチング対象を全世界の企業や研究機関に広げる。同社のマッチングサービスは、パートナー探索や新材料の用途開拓などを目的に多くの大手化学メーカーで採用が拡大している。新サービスでは定額制の料金設定を導入するなど、使い勝手の向上で、化学メーカーなどのビジネス拡大に貢献する考えだ。

新サービスの名称は「Linkers for Makers（リンカーズ・フォー・メーカーズ）」を予定。インターネット経由でソフトウェアを利用できるSaaSを導入する。

販路開拓やリサーチなどを行う現状のサービスでは、リンカーズのスタッフが材料の用途開拓などを希望するメーカーと対話を重ね、募集要項を作成している。候補企業のリストアップから面談にいたるまで2～3カ月程度の時間を要しているが、新サービスではAIとの対話により、非公開情報を含む約45万社のデータベースの中から、パートナー候補企業の自動選出を実施。短時間で20～30社の候補リストを入手することができる。例えば用途開拓などに活用する場合、「2～3分で新たな買い手を見つけることも可能になる」（前田社長）という。

また、従来は1案件ごとに料金が発生していたが、新サービスでは月額定額制の導入を決めた。さらに、26年半ばまでには海外の企業や研究機関、大学などの論文や研究動向などもデータベースに加える計画で、サービスのさらなる拡充を図る。

リンカーズのマッチングサービスは、化学業界をはじめ、自動車や食品、機械など幅広い業界で活用されている。圧倒的なデータベースと国内外のコーディネーター機関の活用で、マッチング率は47%と一般的なプラットフォームに比べ約5倍を達成。例えば化学関連メーカーでは、特殊材料の量産委託先の探索や光学部品向けの用途開拓など、数多くのマッチングや新規商談が成立している。

リンカーズでは今後、新サービスの提供を契機に、さらなる事業拡大を目指す考えを示す。営業人員の採用を積極的に拡大することで、既存顧客への深耕提案に加え、新規顧客開拓力を強化するほか、素材や自動車、電機、医療など、業界ごとに組織した専門チームで顧客や業界との関係強化に取り組む。

なかでも化学を中心とした材料を注力分野の一つととらえ、マッチングサービスの導入提案を強化していく。この一環として4月、元東レ副社長の阿部晃一氏と特別顧問契約を締結した。技術経営の第一人者として知られる阿部氏の知見も生かしながら、革新的な技術と社会的なニーズの結びつきにつなげるとしている。

新サービスの導入について前田社長は「これまでのエージェント型サービスからスカウト型サービスへと変貌を遂げる」と強調する。オープンイノベーション・プラットフォームの進化により、世界中の製造業の技術の懸け橋となることで、「製造業の研究開発の生産性や事業化率を飛躍的に向上させたい」としている。

⑥KNiT、パンや培養肉などAI画像で食感を数値化

2025 年 6 月 12 日 化学工業日報



パンの気泡の解析結果。「GeXel」では気泡部分のみの抽出も可能(右)

人工知能(AI)画像解析スタートアップのKNiT(大阪市中央区)は、画像から食感を数値化するサービスで食品市場への訴求を強める。官能評価から数値データに置き換えることで、結果のばらつきを抑えるとともに、開発期間の大幅な短縮、品質向上を実現する。食感は、粉体や気泡などの数や大きさから推測できるものの、画像解析を人手でやろうとすると多大な労力と時間がかかる。一方、同社のAI画像解析サービス「GeXel」(ジクセル)を用いればわずか数分で解析結果を得られる。パンや麺類の食感、ビールの気泡などに加え、培養肉の細胞組織構造の把握にも商機を見込む。

おいしさを左右する「ふんわり」「もちもち」といった食感は数値化が難しく、人の感性に依存する官能検査が主流となっている。ただ、個々人で解析結果にばらつきが生じる。顕微鏡で撮影した画像から気泡を数えたり、構造を分析したりすれば食感を推測できるものの、「とても大変な作業であるため、これまで誰もやろうとしなかった」(松本恭成CPO)。パンの気泡の場合「気泡数が多ければ気泡膜が薄いので、軽くソフトな食感となる。気泡数が少なければ気泡膜が厚く、かみ応えの強い食感だと分かる」という。

気泡の形も影響を与えており、縦に長いと引きが強い食感になり、丸目だと歯切れがよい食感となる。唾液と混ざる過程では、グルテンの架橋構造の把握が重要だ。肉などの細胞の状態も捉えることができる。例えば、冷凍食品では冷凍前後の細胞画像を撮影する。細胞が壊れていると食感が変わるため、前後の画像比較が有用だ。

気泡や構造を一つひとつ数えたり、分析したりすることは非常に煩雑な作業となる。研究員が機能形状やサイズを計測する場合、顕微鏡と測長ソフトウェアを用いる手法が一般的だ。測長ソフトウェアは、いわば物差し。研究員は物差しで気泡の形状やサイズを長時間見続けることになり、その労力は多大なものという。加えて、これまでのソフトウェアでは「気泡以外も認識してしまうため気泡がつながってしまい、正確に数えられない。正しい構造を認識できなかった」(同)。

一方、同社のAI画像解析サービス・GeXelは、気泡部分のみを抽出可能だ。境界の把握を得意としているため、個々の気泡がつながらず、正確に数えることができる。「今回、AIによる食感の要因解析から人間の感覚に近かったり、先行研究と相関があったりするという解析結果が得られた。例えば、空隙の向きと歯切れの相関が得られたのは興味深い」(同)と自信をみせる。食品メーカーや素材・原料・食品添加物を手がける化学メーカーへの提案を強化する。

GeXelは画像をブラウザー経由でアップロードすると、数分で粉体や気泡の数・大きさ・形状・色・凝集率などの解析データが返ってくる。数クリックで自動分析可能。品質管理の正確化、製造工程の最適化にもつながる。月額利用料は5万～20万円。「一般的に専用ソフトウェアの開発を依頼すると200万～500万円、AI作成には100万～300万円を要する」(同社)。

⑦ 中東危機、原油高が突く米経済の「不都合な真実」

2025 年 6 月 14 日 日本経済新聞



13 日の米株式市場でダウ工業株 30 種平均は大幅に反落し、前日比 769 ドル安の 4 万 2197 ドルで終えた。イスラエルがイランの核施設などを攻撃し、投資家のリスク回避姿勢が強まった。中東情勢が緊迫するなか、米市場では原油や金に買いが入った。米経済を取り巻く「不都合な真実」を改めて浮かび上がらせた。

イスラエルのイラン攻撃が伝わったのは米東部時間 12 日夜。商品市場では WTI(ウエスト・テキサス・インターミディエート)原油先物が一時 1 バレル 77.62 ドルと、期近物としては 1 月以来の高値を付けた。その後は上げ幅を縮めたものの、13 日は前日比 4.94 ドル高の 72.98 ドルで終えた。

生産や流通への影響が実際に出れば、一段の原油高は避けられない。市場が警戒するのは、イランが中東産原油の海上輸送の要衝であるホルムズ海峡を封鎖したり、イスラエルがイランの石油施設を攻撃したりする事態だ。

ホルムズ海峡は世界需要の 2 割に相当する原油の輸送路になっている。万が一のことが起これば世界経済の混乱は避けられないが、ハートリー・パートナーズのエドワード・モース氏は「封鎖の可能性はかなり低い」と話す。中東産原油を必要とする中国が望まないうえ、米国の介入を招くことになるからだという。

イランの石油施設が攻撃されればどうなるか。オランダの金融大手 ING はイランの生産量の半分ほどの日量 170 万バレルの輸出が途絶えれば、原油価格を 80 ドルに押し上げると予想する。一方、石油輸出国機構(OPEC)には日量 500 万バレルの増産余力があり、影響の長期化を見込んでいない。

イスラエルとイランが挑発と攻撃の応酬を続ける限り、市場は最悪の事態を想定せざるを得ない。原油相場が短期的に下がりにくいのは確かだろう。イラン攻撃に関与していないことを明言する米国にとっても、これは厄介な事態だ。

米経済には減速感があり、石油需要にも及んでいる。米エネルギー情報局(EIA)の週間統計から推計した米ガソリン消費量は 5 月から前年実績を下回り、やや頭打ち感がある。需要が増えるドライブシーズンに入ったにもかかわらず、かなり異例の動きだ。

原油が一段と値上がりすればガソリン価格にも跳ね返り、消費をさらに冷え込ませかねない。ストラテジック・エナジー・アンド・エコノミック・リサーチのマイケル・リンチ氏は「ガソリン高が消費者心理を悪化させ、他の支出を減らすことにつながる」と警戒する。

米国の物価指標は 5 月まで米関税政策による影響がほとんどなかった。モルガン・スタンレーは「今後数カ月のうちに財の価格が一段と上がる」とみており、その影響が 8~9 月にピークに達するという。原油高は米国のインフレを勢いづかせる可能性もある。

原油価格と市場の予想インフレ率の間には連動性があり、債券市場の予想インフレ率を示すブレイク・イーブン・インフレ率(BEI)は 13 日に切り上がった。「我々はインフレを制御してきた」というトランプ米大統領には悩ましい事態だ。米経済の弱みを突くような原油高を前に市場参加者が尻込みするのも無理はない。

(NQN ニューヨーク=三輪恭久)

⑧ 週間原油コストの推移

週間コスト 4 円 50 銭程度上昇
中東緊迫化 原油相場急伸

2025 年 6 月 18 日 燃料油脂新聞

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル／バレル	前週比	ドル／円	前週比	円／ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	5/6～5/12	62.94	0.60	145.61	0.74	57.64	0.84
	5/13～5/19	64.99	2.05	147.31	1.70	60.21	2.57
	5/20～5/26	64.37	▲ 0.62	144.92	▲ 2.39	58.67	▲ 1.54
	5/27～6/2	63.51	▲ 0.86	145.00	0.08	57.92	▲ 0.75
	6/3～6/9	64.70	1.19	144.64	▲ 0.36	58.86	0.94
	6/10～6/16	69.25	4.55	145.25	0.61	63.26	4.40
水曜日～ 火曜日	5/7～5/13	63.61	2.30	146.27	1.40	58.52	2.66
	5/14～5/20	64.95	1.34	146.79	0.52	59.96	1.44
	5/21～5/27	64.16	▲ 0.79	144.33	▲ 2.46	58.24	▲ 1.72
	5/28～6/3	63.51	▲ 0.65	145.09	0.76	57.95	▲ 0.29
	6/4～6/10	64.98	1.47	145.02	▲ 0.07	59.27	1.32
	6/11～6/17	70.16	5.18	145.33	0.31	64.13	4.86

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート



UM NEWS

ウメトニュース

<https://um-info.com/>

編集・発行

株式会社 **ウメトマテリアル**

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1 丁目1番1号

パレスサイドビルディング 1 階

TEL 03-6256-0123 FAX 03-6256-0303